

未来への協働

2023年3月8日(水)
第361号

発行所 未来への協働
ホームページ
https://kyodomirai.org
〒577-0023
大阪府東大阪市荒本2丁目14-5
電話/FAX
(06) 4306-3512
郵便振替
00940-8-213061
Eメール
mirai_newsroom@yahoo.co.jp
●発行人 山本 康

●第2・4水曜日発行
●200円(本体182円)
●定期購読 購読料(送料別)
1月 400円(送料188円)
半年 2,400円(送料1,128円)
1年 4,800円(送料2,256円)

今号の主な内容

- 2面 物価高に見合う賃上げを関西合同労組
- 3面 中国を挑発する米CSIS報告書
- 4面 武器なしに平和を創る
- 5面 極私的的反戦論 備えあれば憂いあり
- 6面 「満州」に関する覚え書き(その一)

紙面へのご意見、ご感想を

上記発行所までお寄せください。FAXでも送れます(電話番号と同じ)。詩、短歌、川柳、写真なども募集しています。

扇状地

法治国家の行政と司法はあらかじめ議会の制定した法律によって行われる。日本国憲法が立法府である国会を「国権の

成田空港会社 夜陰にまぎれ農地を収用

悔しいが終わりではない

2月15日夜、市東孝雄さんの天神峰農地の収用が強行された(前号速報)。成田空港会社NAは1000人を越え



強制執行後の自宅ですいつも通り出荷作業を進める市東孝雄さん(左端) = 2月20日

で押しつぶした。

さらに対象農地をフェンスで囲い込み、支援者3人を不当逮捕した。強制収用への抗議行動は、15日夜から翌日まで30時間続いた。

違法・不正の強制執行

1971年の大木よねさん宅に対する強制執行以来の暴挙である。対象となった天神峰の農地は、小作地とはいえず、市東家が親子3代100年以上にわたって開墾・開拓し育んできた農地だ。孝雄さんの父、東市さんは戦地からの復員が遅れたため、戦後の農地改革に間に合わず、小作地のままになっていただけで、名実ともに「市東さんの農地」である。

正々堂々、信念貫ぬく 市東孝雄さん

親父が亡くなった後、萩原進(当時の産直の会代表・13年12月急逝)が「強制収用はもうできない。ここで産直をやろう」と誘ってくれました。私も強制収用のような暴力沙汰はもうないんだと思って、仕事を辞めて農業を継ぎました。ところが03年、空港会社が突然「地主だ」と明け渡しを迫ってきたのです。仕事にも慣れて有機農業の楽しさや生きがいを感じられるようになった頃です。こ

支援下さい。(2月19日)



大軍拡反対！ 神戸でデモ

岸田政権の軍備増強に、各地で反対する行動が始まっている。「ストップ大軍拡！ 市民集会とデモ」(2月23日・神戸/市民デモHYOGO)に250人が参加した。

山本昭宏さん(神戸市外大准教授)が講演。敵基地攻撃能力の保有が防衛政策の大転換であることを述べた。オンライン参加した清水早子さん(ミサイル基地いらない宮古島住民連絡会)は、宮古島が大規模に基地化している様子を報告。「政府や自衛隊は、本当のことを言わない。ウソばかり」と不信と怒りをぶつけた。

岸田氏は閣議決定で何でも決めてしまう昨今の政治を、そのまま正直に述べたまでなのかもしれない。しかし、ここまで露骨に「国会は内閣の追認機関でよい」と言われて、野党の国会議員諸氏は黙っていいいいのか。与党が絶対多数だから仕方がないと諦めているのか。▼そんな負け犬根性では野党の再生はない。ここは政治の根本が問われているのだから。(謙)

耕作者である市東東市港に対する土地収用法の皆さんの同意もなく不在地期限切れを迎えるなかで、主から土地を違法に買収したのがNAAだ。市東さんがNAAから「不法占拠一呼ばわりされるいわれは微塵もない。またNAAが農地法を使って「農地明け渡し」を求めるとは、最高裁がこれを是認したが、農地法という農民の権利保護の法律だ。その農地法で農民から農地を奪うなどとはありえない話だ。

1990年代、成田空港であり、強制収用はそ

【焦点】

中国を挑発するCSIS報告

米軍の戦争シミュレーション

米国の超党派軍事シンクタンクCSIS(戦略国際問題研究所)が、1月6日に公表した報告書「The First Battle of the Next War, 以下「報告」を紹介する。無前提に「中国が攻めてくる」とする報告自体が中国にたいする戦争挑発だが、日米軍事サークルの考えを知ることができる。

報告は、グアムの空軍基地が遠すぎて作戦に向きなため、台湾に近い在日米軍基地の使用が不可欠とする。さらに、日米地位協定の「事前協議」について、「多くの日本側当局者は、日本本土から日本防衛以外のいかなる目的でも戦艦に出撃する場合、事前に米国が日本の許可を得ることが必要だ、と解釈している。しかし、米国側当局者は、『協議』とは米国の意図を日本に通知することだ」と見なし「しており、この不一致が作戦の遅延、妨害をもたらす可能性がある。この不一致をただちに解決」せよというのである。

日本の参戦は必須条件

報告は、グアムの空軍基地が遠すぎて作戦に向きなため、台湾に近い在日米軍基地の使用が不可欠とする。さらに、日米地位協定の「事前協議」について、「多くの日本側当局者は、日本本土から日本防衛以外のいかなる目的でも戦艦に出撃する場合、事前に米国が日本の許可を得ることが必要だ、と解釈している。しかし、米国側当局者は、『協議』とは米国の意図を日本に通知することだ」と見なし「しており、この不一致が作戦の遅延、妨害をもたらす可能性がある。この不一致をただちに解決」せよというのである。

【概要】

中国軍は、ミサイルの第一撃で台湾の海空軍をほぼ壊滅させ、台湾に兵員を上陸させる。後続部隊の上陸と補給を確保するために港湾と空港の確保を目指した上で、北方



米ワシントンDCにある戦略国際問題研究所(CSIS)の本部ビル

軍用機112、161機、艦艇26隻を失う。台湾軍は、艦船26隻が全滅、航空機の半数以上を失う。中国軍は、航空機155、327機、艦船138隻、死者1万4500人以上。台湾のインフラは壊滅

民間空港の軍事利用

シミュレーションでは、日米軍用機の9割が

ミサイル攻撃で地上撃破されるため、報告は、日本の民間空港を盾にし、と勧告する。「それぞれの航空機が破壊される可能性は、ミサイルがカバリーするトータルな範囲(分子)と、駐機エリアのトータル面積(分母)によって決まる。空軍の航空機を民間空港に分散配置すれば、中国が攻撃しなくてはならない面積を著しく拡大し、これによって米国と日本の損失を減らすことができる。日本の民間空港への：有事のアクセスは、地域の政治的対抗によって妨げられるかもしれないが、結果の重大さからみて強力に取り組むべきである。日本本土がミサイル戦争の戦場になる。

自衛隊が12式地对艦ミサイルの長距離化を急ぎ、トマホーク500発を米国から買うのはこうした問題意識からだ。自衛隊が第2米軍となり、中国との戦争に突入しようとしている。沖縄だけの問題ではない。日本本土が米軍の盾となつて戦場化する。大規模な反戦運動が必要だ。

報告は、グアムの空軍基地が遠すぎて作戦に向きなため、台湾に近い在日米軍基地の使用が不可欠とする。さらに、日米地位協定の「事前協議」について、「多くの日本側当局者は、日本本土から日本防衛以外のいかなる目的でも戦艦に出撃する場合、事前に米国が日本の許可を得ることが必要だ、と解釈している。しかし、米国側当局者は、『協議』とは米国の意図を日本に通知することだ」と見なし「しており、この不一致が作戦の遅延、妨害をもたらす可能性がある。この不一致をただちに解決」せよというのである。

報告は、グアムの空軍基地が遠すぎて作戦に向きなため、台湾に近い在日米軍基地の使用が不可欠とする。さらに、日米地位協定の「事前協議」について、「多くの日本側当局者は、日本本土から日本防衛以外のいかなる目的でも戦艦に出撃する場合、事前に米国が日本の許可を得ることが必要だ、と解釈している。しかし、米国側当局者は、『協議』とは米国の意図を日本に通知することだ」と見なし「しており、この不一致が作戦の遅延、妨害をもたらす可能性がある。この不一致をただちに解決」せよというのである。

対艦ミサイルの備蓄

「紛争期間中、米軍は長距離精密ミサイル、特に空対地スタンドオフミサイルと長距離対艦ミサイルを5000発は使う。しかし、中国本土の基地は政治判断から攻撃できないので、空軍が6500発保有する空対地ミサイルが役に立つかどうかかわからない。空軍には対艦ミサイルが100発しかないが、対艦ミサイルを大量に保有する海軍は「空軍爆撃機にできるようなミサイルの大量一斉発射能力を持っていない」。

集団化が進む日本

映画監督 森達也さん

2月11日、滋賀県大津市で行われた映画監督の森達也さんの講演が行われた(写真左)。

放送されなかった番組

森さんはテレビディレクターとして1995



「オウム事件以降、日本では集団化の傾向が強まった。不安と恐怖に駆られた弱い者が集団化し、自滅に向かって暴走する。異物の排除、同調圧力、強いリーダーを求め、厳罰化を要求する。『先の戦争のときも日本はそうだった』と森さん。必要なのだ。

島々を戦場にするな

2月26日 那覇市で緊急集会



「島々を戦場にするな 沖縄を平和発信の場に!」

那覇市の県民広場で開かれた。宮古島をはじめ南西諸島の軍事基地化に対し、緊急に1000人集会として企画された。集会にはそれぞれを上回る1600人の県民が参加し、抗議の声をあげた。与那国、石垣、宮古をはじめ沖縄島からも、若者たちも多く参加があった。具志堅隆松代表

「島々を戦場にするな!」を起したのかである」と森さんは語る。そこを解明しなければ、同様の事件は再発するからだ。オウム裁判では、そこが問われていたが、何もわからないまま、主要幹部らの死刑が執行された。ところが、野生のヤギは、草がなくなれば移動する。ヒツジはヤギに比べて移動するので生き延びられるという。日本人の集団化をヒツジ群れに例えるなら、日本人を救うことができるのは、少数でも自立した「ヤギ」の存在だ。その役割を果たす人物が必要なのだ。

「島々を戦場にするな!」を起したのかである」と森さんは語る。そこを解明しなければ、同様の事件は再発するからだ。オウム裁判では、そこが問われていたが、何もわからないまま、主要幹部らの死刑が執行された。ところが、野生のヤギは、草がなくなれば移動する。ヒツジはヤギに比べて移動するので生き延びられるという。日本人の集団化をヒツジ群れに例えるなら、日本人を救うことができるのは、少数でも自立した「ヤギ」の存在だ。その役割を果たす人物が必要なのだ。

「島々を戦場にするな!」を起したのかである」と森さんは語る。そこを解明しなければ、同様の事件は再発するからだ。オウム裁判では、そこが問われていたが、何もわからないまま、主要幹部らの死刑が執行された。ところが、野生のヤギは、草がなくなれば移動する。ヒツジはヤギに比べて移動するので生き延びられるという。日本人の集団化をヒツジ群れに例えるなら、日本人を救うことができるのは、少数でも自立した「ヤギ」の存在だ。その役割を果たす人物が必要なのだ。

「島々を戦場にするな!」を起したのかである」と森さんは語る。そこを解明しなければ、同様の事件は再発するからだ。オウム裁判では、そこが問われていたが、何もわからないまま、主要幹部らの死刑が執行された。ところが、野生のヤギは、草がなくなれば移動する。ヒツジはヤギに比べて移動するので生き延びられるという。日本人の集団化をヒツジ群れに例えるなら、日本人を救うことができるのは、少数でも自立した「ヤギ」の存在だ。その役割を果たす人物が必要なのだ。

「島々を戦場にするな!」を起したのかである」と森さんは語る。そこを解明しなければ、同様の事件は再発するからだ。オウム裁判では、そこが問われていたが、何もわからないまま、主要幹部らの死刑が執行された。ところが、野生のヤギは、草がなくなれば移動する。ヒツジはヤギに比べて移動するので生き延びられるという。日本人の集団化をヒツジ群れに例えるなら、日本人を救うことができるのは、少数でも自立した「ヤギ」の存在だ。その役割を果たす人物が必要なのだ。

私たちは世界に平和憲法の約束を守ります。二度と戦争は起こしません。加わりません。私たちはいかなる戦争にも反対します。紛争は話し合いで解決します。侵略されたら直ちに白旗を掲げ降伏します。日本が戦地になったら避難民になり生き延びます。

虚構の「台湾有事」

一方で、日本では「台湾有事」が呼号され、南西諸島(九州南部から台湾北部にかけて点在する島々)に陸上自衛隊のミサイル配備が急ピッチで進められている。政府は昨年12月の安保3文書改定で、防衛費をGDP比2%へ引き上げる大軍拡と敵基地攻撃能力(反撃能力)保有など安保政策の大転換を決定した。中国は1981年に台湾の「平和統一政策」とはこれのようにして作

かつて私は「帝国主義は止むべき」という立場だが、その実現論を持ち合わせているわけではない。私は「即時停戦を最優先させるべき」という立場だが、その実現論を持ち合わせているわけではない。しかし、南西諸島へのミサイル配備を強行する様を見ていると、再び沖縄を「本土防衛の捨て石」にしようとしているのかと思えない。しかも今度の「本土」は日本ではなくて、米国のだ。

左翼陣営の混迷

左翼陣営の内部でも混迷があるようだ。「ウクライナ人民の民族解放闘争を断固支持すべき」という意見がある。しかし、攻撃能力を増強すれば、ゼレンスキーが依拠しているのは米・英・仏・独の軍事支援だ。大量の武器や弾薬の投入によってウクライナは世界戦争規模の戦場となりつつある。倍以上、国土面積で25倍以上、GDPで3.5倍以上の中国に岸田首相は

極私的的反戦論 ①

当問弓子

備えあれば憂いあり

ウクライナの首都キーウで、バイデン大統領とゼレンスキー大統領が抱き合っている写真が全世界に配信された。バイデンはその演説で、「欧米は総力をあげてロシアと戦い、ウクライナを解放する」と血盟を誓った。

日本と比べて人口で10倍以上、国土面積で25倍以上、GDPで3.5倍以上の中国に岸田首相は核攻撃の危険性が高まる。軍拡競争で勝つと思っ



G7のなかで国のトップがウクライナを訪問していないのは日本だけとなった。米国は、岸田首相に5月のG7広島サミットまでにウクライナを訪問すべきだと圧力をかけているという。こうした動きの先に待ち受けている未来は、暗黒ではない。

の訪米時にバイデンに嬉々として駆け寄る岸田の写真をみると、米国製武器を爆買いさせられるのも頷ける。日本は進んで米国の属国化しているのだ。こうした事態にどう立ち向かうことができるのか。

『社会の変え方』

泉房穂・著

日本の政治をあらためていたすべての人へ

も阻まれ、百数十件の殺傷予告や自宅への汚物投げ込みがあった。泉氏は、相応の気骨と剛腕の持ち主かと想像する。彼が毎回自戒する「横

政治を変えることは可能だ 諦念という麻薬に負けない

の復讐を誓ったのは、小学生の頃の「ことだ」とある。弟が障がいを持って生まれ、「不幸な子どもの生まれ」によって殺されかけた。未遂に終わった。前途を悲観した母親が無理心中をはかった経験を持つ。泉氏の「復讐」の結果が、今の明石市の行政に表れているのかもしれない。施策方針の決定、予算編成、組織人事で市長権限を最大限行使するが、予算や条制制定には議会の承認が必要となる。既得権益の擁護を図る反対勢力に何度



社会の変え方 泉房穂

ライツ社、2023年刊 1600円+税



三里塚「産直野菜」は有機無農薬。毎週・隔週、「お試しセット」あり。 (お問い合わせ) TEL/0799-72-5242 E-mail/kanjitsu_mail@yahoo.co.jp

トガシさんの「沖縄便り」(52)

ウクライナの今 沖縄戦を忘れない

2月23日、24日は、読者に読んでいた人たちが谷を走る国道で「沖縄戦 スキタイ族の末裔などがを忘れない。ウクライナ 古くから住み着いていたに平和を」というスタンプを貼った。

域のため人口が増え、タール汗などの王朝国家から奴隷狩りにあうなどの圧迫を受け、武器を持ち要塞を作った。16世紀初めのころである。やがて周辺の王朝国家は、武力に優れているコサックを自国の警備として利用するようになった。

統制的ではない 「辺境」の地

ウクライナとは辺境という意味でもあり、辺境こそ統制的ではないが自由と平等が存在している。コサックとは「自由の民」を意味する。混雑の辺境ではあるが黒土地帯であり、自然豊かな地帯である。ロシア軍が占拠

農村共同体 コモン

バンドウラは、ウクライナのザポリージャ・コサックの間で盛んに奏でられていた。ザポリージャはウクライナの真ん中を流れるドニプロ河の少し下流に位置し、欧州最大の原産があるところ。今はロシア軍が占拠

国家の論理と戦争

国家は「コモンの顔をしていない」。特に近代国家になると共同体は崩壊し、絶えず爆撃の危険に置かれている。

川柳

利秋

勉強は禁止と言うとやりだした

万歩計ごろ寝しながら振っている

身を捨てて拾おうとするものがある

何やかや言ってるうちに着くゴール

大好きな人とぶつかり歯が折れた

怒怒怒怒怒 平和行進突き進む

土砂降りの平和行進浜通り

その人は遠藤美希という名前

見てほしい 忘れないでと福島の人

福島に流すな汚染水

壊し、国家の論理が動き大規模な戦争が起こった。それを解決する手段として国連ができたが、ロシアによるウクライナ侵略が起ってしまった。戦争の要因はNATOが東方拡大を慎まず、ロシアは普通ロシアの論理で戦争になり、民

そんな集落を廻っている。雲間にさまよえば海原ただよう小舟ゆれて 真鶴

「カジノ(よ)／(焦点) 筆者の成長は幻 弟「言うな」に、被爆の理由にま 忍論」は酷すぎる。(ち) とめられ、 三里塚の強制収用、けよくわかった。選挙も大 事と、タイムリー。(な) 姑息にも、夜間の強制(み)／尹美香さんの「実収用！ 正義は農民に、 質無罪」。運動つぶしが われらにあり。これから ねらいだった(き)／戦 争を避けることは歴史か 勝利までたたかうぞ！ (た) (富樫 守)

「満州」に関する覚え書き (その1)



はじめに、池田忠雄の『事変』(角川文庫・676円)という小説。

1936年9月18日に、日本の関東軍の起こした満州事変がテーマだ。満州事変の調査のために派遣されたリットン調査団の報告書の内容を、スリ集団をつかって盗むという少々荒唐無稽なお話である。

当時の国際連盟から派遣されたリットン調査団は、英・仏・独・伊と当事国の日本、中国、それ



2月29日に横浜に入港している。その来日直後の3月1日には「満州国」ができ、調査団が日本側の政府や軍部の要人、民間人と面談し始めた3月5日に、団琢磨が暗殺される「血盟団事件」が起こってしまった。調査団が満州で調査中の5月に

「事変・傀儡・移民・崩壊」

は5・15事件が発生している。日本にとって非常に印象の悪い(こじま・みちお)

まい・しよっと (47)



「月桃」の歌碑、沖縄県西原町「夕陽の広場」にある。同町在住の海勢頭豊さんが82年に作詞・作曲、「平和の歌」として歌われ続けてきた。復帰50周年を記念し、22年6月22日に除幕。「二度と沖縄戦を繰り返すな！」という決意を感じた。

(撮影：2月25日、庄)